

# ブドウ盛土式根圏制御栽培における遮光の影響

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

## 1 部門名

果樹－ブドウ－施設資材

## 2 担当者名

上野美和、阿部和博

## 3 要旨

夏季はハウス内が高温になりやすく、ブドウ栽培では葉焼けや日焼け果の発生が懸念される。そこで、所内ハウス内の盛土式根圏制御栽培ブドウ「シャインマスカット」において、遮光率の異なる遮光資材（高光反射ポリエチレンネット）を用いてハウス内の環境条件を確認したところ、ハウス内の温度上昇を抑制できた。

- (1) 8月中旬から8月下旬までの期間中、30%遮光と50%遮光のハウス内平均気温の差は最大1.1℃で、50%遮光は30%遮光より、高い温度抑制効果を示した（図1）。
- (2) 遮光前と遮光後の葉焼け発生率の比較では、50%遮光が遮光前に有意に葉焼け発生率が高かったが、遮光後は有意差が無くなった（表1）。なお、土壌水分の影響を排除するため遮光期間中の土壌水分は同じレベルに保った。
- (3) 果実品質は、果皮色及び糖度で有意差があり、遮光率50%以上の遮光資材では、成熟が遅延する可能性が考えられた（表2）。なお、定植1年目（3年生）の果実品質の評価である。

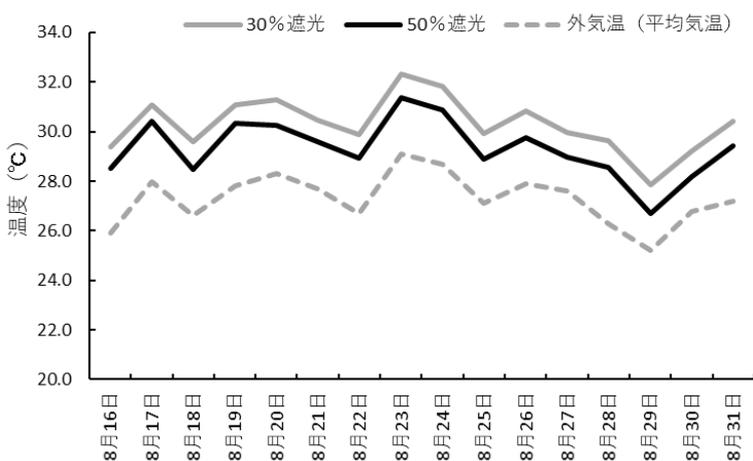


図1 試験区の平均気温の比較

表1 葉焼け発生率調査結果

調査時期	葉焼け率 (%)		
	30%遮光	50%遮光	有意性
遮光前	3.0	8.2	**
遮光後	3.3	4.1	n.s.
有意性	n.s.	*	

注) t検定により\*は5%水準、\*\*は1%水準で有意差あり。

表2 果実品質

遮光率	粒重 (g)	果皮色 (カラ-チルト値)	糖度 (°Brix)
30%遮光	4.5	3.7	17.4
50%遮光	4.6	2.3	16.0
有意性	n.s.	*	*

注) t検定により\*は5%水準で有意差あり。

注) 満開日:6月4日、収穫日:8月20日

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和7年度
- (2) 研究課題名 育成センサーの開発と日本のスマート農業の創出〔「福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進」委託事業〕

## 5 主な参考文献 なし